

環境科学科

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー） （令和９年４月１日から施行）

環境科学科では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の達成を目指し、幅広い教養や環境問題に関わる自然科学及び社会科学に関する専門性を修得し、環境と人と社会に対する深い愛情を持ち、主体的かつ自律的に学び続ける、適切な倫理観を備えた人材を育成するため、以下に掲げる考え方にに基づき、教育課程を編成・実施する。

１．教育課程の編成に関する基本的な考え方

- (1) １年次を中心に、大学生として必要な一般教養を配置するほか、環境科学を学ぶ上で必須となる自然科学及び社会科学の導入科目（基礎科学・基礎人文社会）を体系的に配置する。また、高等学校までに履修した内容の定着が十分でない学生等に対して、大学教育への円滑な導入を図るための入門科目群を設置する。
- (2) ２年次以降を中心に、専門知識と技術を効果的に学ぶため、環境基礎・環境衛生・環境分析・環境評価・環境保全の各分野において、知識及び技術の順次性に留意して、専門科目（講義・演習・実習）を体系的に設置する。
- (3) 環境問題を正確に把握し解決する力を養うため、自然科学系科目と社会科学系科目の両方を配置するなど、学科の専門分野を超えた学際的な視点を養う科目を設置する。
- (4) 環境分野の専門家としてのキャリアを支援するため、化学物質の使用や労働衛生、社会調査に関する資格を取得できるよう必要な科目を配置する。
- (5) 地域社会や産業界など学外との連携や協力を通じて、コミュニケーション能力等の汎用的な技能を培うとともに、視野を広げ、考えを深める対話的な学びの能力を養う科目を設置する。
- (6) ３年次以降、獲得した知識や技術を統合し、課題の解決と新たな価値の創造につなげる能力や主体的かつ自律的な態度、プレゼンテーション能力を養うため、卒業論文、課題研究等の科目を設置する。

２．教育課程の実施に関する基本的な考え方

- (1) 各授業科目について、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従い、設計する。また、到達目標、授業計画と実施方法、成績評価基準等を明確にするとともに、シラバスを通じて周知する。
- (2) 主体的に考える力を育成するため、PBLなどのアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、授業形態及び指導方法を工夫する。
- (3) 実践力を涵養するため、ゼミ、実習、卒業論文等で授業形態と指導方法を工夫するとともに、知識及び技術を効果的かつ効率的に修得するため、ICTを積極的に活用する。

3. 学修成果の評価に関する基本的な考え方

別に定めるアセスメントプランに基づき、学修成果の把握及び検証を行い、教育、学修支援等の改善・向上を図る。